

令和元年度指定管理運営業務評価票

施設名称：臨海スポーツセンター		指定管理者：ミズノ・南海グループ（代表ミズノ）		指定期間：平成28年4月1日～令和3年3月31日		所管課：大阪府教育庁教育振興室保健体育課	
評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言	
			S～C		S～C		
平等利用が確保されるよう適切な管理を行なうための方策	(1)施設の設置目的及び管理運営方針	①施設の設置目的に沿った運営	条例の「府民の保健体育及びスポーツ並びに健全で文化的な集会用」に供し、安全・安心な場・機会・サービスの提供を実施している。弊社他の指定管理施設での事例なども活かして運営を行っている。 (評価点：3点)	A	大阪府立臨海SC条例に記載のある設置目的に従って「府民の保健体育及びスポーツ並びに健全で文化的な集会用」に供している。また、指定管理者であるミズノ・南海ビルサービスが他の施設で得たノウハウを活かして運営を行っている。 (評価点：3点)	A	
		②提案した管理運営方針に沿った管理	各種教室（11種目）の運営、スケート・卓球・バドミントン大会の開催、スケートリンクの運営・イベントの実施を通じてスポーツの振興・人口拡大、地域の健康増進を実施している。 (評価点：3点)		各種教室を開催しており、教室の種類が充実したものとなっている。また、イベント（スケートワンコインデー等）も積極的に実施しており、スポーツ振興・地域の健康増進に貢献している。 (評価点：3点)		
		③社会貢献活動、環境活動、法令遵守の取組み	減免対象利用に関する案内と実施（H.P並びに事前打ち合わせ）、ゴミ削減掲示によるごみ箱削減とその協力掲示、コンプライアンスを重視したスタッフ教育研修（6月）、個人情報保護などに努めている。 (評価点：3点)		コンプライアンス教育をスタッフに実施しており、法令遵守への意識が高い。また、ゴミ削減の掲示を実施し、環境保護への意識も高い。 (評価点：3点)		
(2)平等な利用を図るための具体的手法・効果	①公平なサービス提供、対応状況	誰もが平等に利用できる機会（共用利用）設定、運動レベルに関係なく誰でも参加できるプログラムの提供、分かりやすいホームページの構築を行っている。 (評価点：3点)	A	館内各所に施設の利用にあたっての規則及び注意事項を大きく掲示し、すべての利用者が快適に施設利用できるよう、公平性・平等性の確保に努めている。 (評価点：3点)	S		
	②高齢者、障がい者等に対する配慮	高齢者には安価で参加しやすいアロマストレッチ教室や、共用卓球の設定、60才以上料金を設定したスケートの一般利用料金。障がい者等には、スケートの一般利用の無料化、フリー卓球の無料化の設定をしている。 (評価点：3点)		スポーツ歴の長い高齢者だけでなく、運動を苦手としているシニア層に対しても、興味を惹くプログラムを組み、高齢者全体への配慮が見られる。また、障がい者スポーツ団体の利用も積極的に受け入れている。 (評価点：4点)			
(3)利用者の増加を図るための具体的手法・効果	①利用者増を目指したにぎわいづくり方策の取組み	エントランススペースにおける車椅子の設置、高齢者・障がい者の方や一般の方が気軽に休憩できる椅子・テーブルの配置によるくつろぎスペースの確保、クリスマス、七夕等季節感のある館内掲示物・トップアスリートポスターの更新と受付（ショップ）での窓口対応。LINEを活用し、イベント毎に來館促進できる情報の提供をしている。 (評価点：3点)	A	エントランスに設置されているショップの展示物を工夫したり（ハロウィン、クリスマス仕様など）、利用者と一体となり、施設の装飾を作ったり（七夕の願いや令和の目標等）と、従前より華やかなエントランスになっている。また、日頃から清掃を丁寧に実施しており、館内が明るく感じる。 (評価点：3点)	S		
	②年間の広告・広報計画等の情報発信の取組み 〔指標〕利用者数 平成30年度実績：142,538人 令和元年度目標：200,000人 9月末現在実績：89,486人	ホームページ、LINEによるSNSの活用で定期的に情報を配信している。大阪府の私学小中学校へチラシの配布。高石市に後援申請を提出し、定期的な広報誌への記事掲載、高石市内全小中学校へチラシを配布を実施。近隣の大阪府管理施設へチラシ・ポスターの依頼をして相互利用できる環境作りを実施。近隣商店へ置きチラシの依頼実施。南海電鉄駅構内ポスター貼り実施。夏季はうちわの作成をして配布実施。 (評価点：3点)		南海電鉄駅へのポスター掲示や、高石市広報への掲載、高石市内公立小中学校及び府内私立小中学校への拡販を強化し、誘客効果が徐々に始めている。また、公式LINEの導入、ホームページのリニューアル等、情報発信を積極的に行っている。 (評価点：4点)			
I 提案の履行 施設の効用を最大	(4)サービスの向上を図るための具体的手法・効果	①提案のあったサービス向上策の取組み	早朝・深夜時間帯での開所時間の延長と休日開所への対応を行い、イベント等に関しては利用者要望に柔軟に対応している。体育館の空き枠の有効活用として卓球・バドミントンの共用利用実施。気軽にスケートを利用していただくため年に3回程度ワンコインデーの実施。 (評価点：3点)	A	利用者のニーズに合わせて、早朝・深夜時間帯での開所時間延長（主にスケートリンク専用枠貸し）や、年末年始などの休日開所などの対応を行っている。 (評価点：3点)	A	
		②自主事業の取組み	卓球大会・バドミントン大会・フィギュアスケート大会など日頃の教室の成果を発揮する場として大会を実施。高齢者が参加しやすい安価設定のアロマストレッチを実施。気軽に体験しやすいよう無料体験の実施。教室参加者には、付加価値として振替制度の設定。 (評価点：3点)		各種教室が充実しており、運動が得意な人や苦手な人、子どもからお年寄りまで幅広いニーズに応えられる内容となっている。また、卓球大会やバドミントン大会を開催することで、スポーツの場を積極的に提供することができている。 (評価点：3点)		
		③施設設備、機能の活用	旧食堂スペースは、スケート利用者の待機場所、休憩室として有効活用している。スケートリンクにある売店スペースを冬季期間は軽食の販売を行い利用者へ提供している。回転率の悪かったトレーニングルームを廃止し、地域のコミュニティの憩いの場として活用していく見込み。 (評価点：3点)		トレーニングルームを廃止し、地域コミュニティの場の提供・新たな需要の取り込みを目的としているが、現状では利用者は少数であり、今後の利活用に期待したい。 (評価点：2点)		

令和元年度指定管理運営業務評価票

施設名称：臨海スポーツセンター		指定管理者：ミズノ・南海グループ（代表ミズノ）		指定期間：平成28年4月1日～令和3年3月31日		所管課：大阪府教育庁教育振興室保健体育課	
評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言	
			S～C		S～C		
状況に関する項目	(5) 施設の維持管理の内容、適格性及び実現の程度	①施設設備の効果的な維持管理	ライフサイクルコスト低減に向けた施設点検表、修繕箇所をランク付けした資料に基づき修繕並びに点検を実施している。本年度は修繕箇所として、スケートリンク整備のザンボニーの小さな整備、一階部分エントランス・第一体育室の照明の交換整備を実施。維持業務を委託している南海ビルサービスと週一回ミーティングを行い情報交換を密に取っている。 (評価点：3点)	A	緊急度に応じて修繕箇所に優先順位を付けた一覧表を作成し、順番に修繕を実施おり、良好な取り組みである。また、大阪府・指定管理者で月に1度施設の整備状況の共有の場をもっている。 (評価点：3点)	A	
		②施設設備の安全管理	点検チェックシートによる専門スタッフを配置し速やかな設備状況の点検と安全確認を行っている。年間で5日程度体育館の点検日を設けて、セルフチェックを行い施設・備品点検の実施。スケート定休日にはリンク整備を揉捻に実施。 (評価点：3点)		施設を安全に利用するため、設備状況の点検チェックシートを作成し、定期的に点検を行っている。 (評価点：3点)		
		③緊急時の危機管理体制	緊急時体制表は、事務所の見やすい場所に掲示し誰でもすぐに確認できるよう掲示している。 (評価点：2点)		緊急管理マニュアルが整備しており、スタッフに教育を実施している。また、定期的にスタッフの避難訓練を行い、万が一に備えている。今年の台風接近時も警報が発令した場合の対応について事前に府に連絡があり、また通過後には速やかな被害報告もあった。 (評価点：3点)		
	(6) 収入確保策の実施	①広告収入等の収入確保策の取組み	ネーミングライツパートナー企業は営業・情報収集を行うも現在のところ参加企業はない。 (評価点：2点)	B	広告収入を獲得するのは難しいというのが現状である。大きな大会が開催される施設ではないため、メディアへの露出が少ないのが一因と考えている。スポーツ番組でのロケ地になったり、世界選手権出場選手が練習したりしており、施設の潜在需要は低くないため、今後広告収入獲得へ繋げていくことを期待する。 (評価点：2点)	B	
		②提案どおり実施されているか。	イベントにおける広告収入については現在模索しているところである。各自主事業については、利用者満足度、継続率アップに向けてのキャンペーンを実施している。臨海SCの市民の認知はまだ低いので高石市主催のイベントに協力をして施設のアピールをしている。高石市シーサイドフェスティバル出店。 (評価点：3点)		地元根付いた定期利用者の多い施設であるがゆえに、今後いかにして新規顧客獲得、イベント等での収益確保が行っていくかが課題。地元イベント等にはミズノショップで出店をしたり、夏場に冷凍ドリンクを販売したりと新たな試みは行っており、引き続き努力いただく。 (評価点：3点)		

令和元年度指定管理運営業務評価票

施設名称：臨海スポーツセンター		指定管理者：ミズノ・南海グループ（代表ミズノ）		指定期間：平成28年4月1日～令和3年3月31日		所管課：大阪府教育庁教育振興室保健体育課	
評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言	
			S～C		S～C		
その他管理に際して必要な事項	(7)府施策との整合	①府、公益事業協力等の取組み	まいど子どもカードの協賛実施。AEDに関しては新たに1台を追加設置し消防と連携し消防応急手当普及員・赤十字救急スタッフを配置。また府各部署が実施する施策のポスターやパンフレットの配架・掲示に協力している。 (評価点：2点)	A	府や公益事業の取り組みに協力いただいている。 (消防との連携や府からの依頼によるポスター掲示など) (評価点：2点)	A	
		②行政の福祉化の取組み	ハートフルサービスでは、清掃員として知的障がい者を1名受け入れ雇用を継続する予定。障がい者によるフットサル大会への協力。障がい者団体受入について柔軟に対応している。 (評価点：3点)		行政の福祉化は提案どおり実施されている。 清掃員として障がい者の方の受け入れを行っている。 (評価点：3点)		
		③ 市民・NPOとの協働の取組み	高石市水道局への協力として「マンホールカード」の配布施設として登録し多くの方に来館頂いている。高石市健幸まちづくり協議会に参加をして、市民へスポーツを通じての健康促進を提供できるようイベント等に参加をしている。高石市側より今年度は臨海SCと協力し合って運営をしたいと、健幸づくり課、総合政策課、社会教育課からアプローチがある。利用者増加の為、コラボできるイベントは積極的に取り組んでいる。高石市シーサイドフェスティバル、特定保健健診イベント、ナイトマーケットなど。 (評価点：3点)		地元である高石市と協働し、施設を訪れる人々を増やす取り組みを実施。(マンホールカード配布。スケート利用券をふるさと納税返礼品とする。高石市内の歩こう会に加えスケート体験会を新たに実施する等) (評価点：3点)		
		④環境問題への取組み	環境問題への教育と資料の購読はもちろんのこと、事務用品においてはリサイクルを心掛け、水光熱費削減に向けて昨年との実績差の情報共有、館内には節電・節水に関する掲示を行うとともに、ゴミ箱を半減し利用者協力への掲示を実施。施設内不要物の廃棄申請並びに5S活動を実施。 (評価点：3点)		リサイクルや節電節水を心掛け、高い意識を持って環境問題に取り組んでいる。 (評価点：3点)		
I 総括		7項目（28点満点）		A	7項目（28点満点）	A	

評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言
			S～C		S～C	
IIさらなるサービスの向上に関する事項	(1)利用者満足度調査等	①利用者満足度調査等の実施状況	セルフモニタリングとしてはQRコード読み取り式アンケート集計を実施。紙での回答を含めて調査回答数が増。また、イベント時にアンケート調査も実施し、今後の参考としている。(各スクール・ワンコインデー・スケート短期教室) (評価点：2点)	B	ネットを利用したアンケート（ポスターに掲示されたQRコードを読み取り）を導入し、幅広く意見を聴取することができている。 (評価点：2点)	B
		②調査結果のフィードバック（PDCA）	施設が古いことに関するご意見が多数ある。照明での明るさ、できる限りの修繕による老朽化の軽減に努めている。1年中使用できるスケートリンクの特徴をアピールするためにもホームページの充実。小まめな清掃による清潔さの維持をしている。 (評価点：2点)		調査結果を踏まえ、各種修繕に努めている。(例：トイレの修繕工事。体育館間仕切り補修、床張り替え、雨漏り補修等)古い施設ではあるが、清潔感や明るさを保てるように日々の清掃や館内展示の工夫を行っている。 (評価点：2点)	
	(2)自主事業	①さらなるサービス向上の取組み 〔指標1〕自主事業参加者数  〔指標1〕自主事業参加者数 H30実績：18,530人、上半期実績：8,233人 R1目標：20,383人、上半期実績：10,530人  〔指標2〕自主事業収入状況 H30実績：31,973千円、上半期実績：14,250千円 R1目標：35,170千円、上半期実績：17,802千円	スケート教室参加者増加として、短期教室の受け入れ枠のリニューアルを実施。親子で参加や大人限定の枠を設けて子供の増加と大人の参加がしやすい環境を作る。テニスの参加者を増加させるため親子参加型のイベントを定期的に行い興味を持ってもらう。全館を活用したフェスタでの新規来場者獲得の為、ミズノオリジナルの子供向けイベント（キッズヘキサスロン、忍者教室）を行い楽しく運動できる機会の提供をする。ワンコインデーを実施し、スケートリンクに来る回数が増えるよう無料体験会やエキシビジョンを行い興味を持ってもらう。スケートにおいては、体験会として元ロシアオリンピック選手によるスケート体験教室を2月に実施し、ミズノヴィクトリー教室を行う。 (評価点：3点)	A	スケートリンク再開後、新規顧客の取り込みを行うため、料金単価を抑えた短期体験教室の実施を行っている（フィギュア、スピード、アイスホッケー）。また、キッズヘキサスロンや忍者教室など指定管理者主体で、楽しみながら体を動かす活動を通して、自分に向いている種目（走・跳・投）を探してみるなど、自主事業の取り組みも盛んに行っている。 (評価点：3点)	A
(3)その他創意工夫	①その他創意工夫の取組み	老朽化による施設ではあるが、定期的な掲示物の張替などによる新しさを創出、各プログラム内容については、季節感のあるキャンペーンや空き枠を利用したスケート教室の増枠を実施する。 (評価点：3点)	A	掲示物・展示物の季節に応じた更新や休憩スペースの設置などお客様目線でのサービスを実施できている。 (評価点：3点)	A	
II 総括		3項目（12点満点）		A	3項目（12点満点）	A

令和元年度指定管理運営業務評価票

施設名称：臨海スポーツセンター		指定管理者：ミズノ・南海グループ（代表ミズノ）		指定期間：平成28年4月1日～令和3年3月31日		所管課：大阪府教育庁教育振興室保健体育課	
評価項目	評価基準（内容）	指定管理者の自己評価	評価	施設所管課の評価	評価	評価委員会の指摘・提言	
			S～C		S～C		
Ⅲ 適正な管理業務の遂行を図ることができる能力及び財政基盤に関する事項	(1) 収支計画の内容、適格性及び実現の程度	①事業収支計画、事業収支実績状況 〔指標〕R1収支計算書（プロポーザル） 取 入：153,650千円、見込み：177,463千円 支 出：159,314千円、見込み：180,840千円 納付金： 13,000千円、見込み：13,000 千円	《R1年度：対プロポーザル比》 取 入：87% 支 出：88% 納付金：100% (評価点：2点)	B	収入については提案時より下回る見込みである。利用者を増やす取組を早急に実施する必要がある。 (評価点：2点)	B	
	(2) 安定的な運営が可能となる人的能力	①職員体制・配置	提案した内容のとおり適切な職員体制・配置を実施している。 (評価点：3点)	B	「管理体制計画書」のとおり職員配置を行い、十分な管理運営可能な職員体制となっている。 (評価点：3点)	B	監視員の教育を徹底すること。また、事故発生時のマニュアルやフローについては、施設職員に意識付けができていないか、大阪府としても確認を行うこと。
		②管理監督体制・責任体制	これまでの指定管理者としての実績や他施設での豊富な経験及びノウハウを生かし、作成した運営管理マニュアルに則り管理監督及び責任者体制を構築し運営している。しかし、今年発生したスケートリンクにおける利用者同士の衝突事故においては、監督体制や初期対応が不十分であり、その結果被害者への配慮に欠けた対応となつてしまい、指定管理者として不十分だった。 (評価点：1点)		各グループ員はそれぞれ本社との連携体制を整えていると共にグループ員同士の定期連絡会を開催し、情報の共有を行っている。また、館長を筆頭に指揮命令系統が明確になっており、良好な管理体制を構築している。しかし、左記の事故は、一般滑走中は禁止されているジャンプ・スピンを黙認したことを起因として発生しており、監督体制に問題があった。また、事故発生後も加害者・被害者同士で対応を任せるなど、事故発生時の対応として被害者の方への配慮に欠けており、事故発生時の対応改善を求める。 (評価点：1点)		
		③指導育成、研修体制	月1回の各施設担当者による全体の定例会を実施し運営についての課題・改善などについて討議を行っている。ミズノグループスタッフについては、朝礼による課題・引継ぎ事項等の確認、本社教育資料の配布、全体研修、リーダー研修等を通じて接客・接遇のレベルアップによる運営向上をはかっている。ミズノ・南海ビルサービスグループとして、今年度より毎週ミーティングを実施し、運営の報告・連絡・相談を密に行っている。 (評価点：3点)		ミズノ及び南海ビルサービス共に、それぞれ従事者への多種に渡る研修を実施しており、資質向上に努めている。 (評価点：3点)		
(3) 安定的な運営が可能となる財政的基盤	①法人等事業者の経営規模、事業規模、組織規模等の運営基盤	①ミズノグループ・南海ビルサービスグループともに経営・事業・組織規模等の運営基盤は良好 (評価点：3点)	A	各グループ共に運営基盤は安定している。 (評価点：3点)	A		
	②法人等事業者の財務状況	②2018年度代表企業ミズノ（株）実績 売上高178,108百万円 営業利益7,623百万円 経常利益7,717百万円 純利益6,005百万円 ROA4.9% ROE6.4% 自己資本比率61.7% (評価点：3点)		左記のとおり健全な財務状況である。 (評価点：3点)			
Ⅲ 総括		3項目（12点満点）		B	3項目（12点満点）	B	